

## 銚子市内の住民グループ活動の現状と課題

安藤智子・岩瀬靖子（千葉科学大学 看護学部）

**Keywords:** 保健師活動・住民グループ活動・まちづくり

### 1. 研究目的

住民相互のつながりが強い市町村では、平均寿命が長く、悪性新生物の標準化死亡比が低いなど健康状況が良好であることがわかっている。千葉県銚子市内には、お子安講や庚申講など伝統的な集まりがあるが、グループ数や活動の内容など実態は明らかになっていない。銚子の文化にあった、市民が安心して健康で暮らせる町づくりを進めるための基礎資料を得ることを目的に、関係機関との協働により実態調査を行った。

### 2. 研究方法

調査対象：町内単位で活動しているグループ  
調査方法：小学校区単位で調査説明会を開催し、町内会長、民生委員、保健推進員に調査を依頼し、郵送で回収した。  
調査期間：平成27年7月～12月  
倫理的配慮：千葉科学大学倫理審査委員会の承認を受けた。

### 3. 結果

#### (1) グループ活動の現状

159 町内会から回答があり回収率は 70%であった。グループの内容は、子供会 55 (34.6%)、お子安講 26 (16.4%)、青年団 22 (13.8%)、同行講 54 (34.0%)、庚申講 20 (12.6%)、老人クラブ 57 (35.8%)、その他の活動が 100 (62.9%) であった。グループがない町内会は 7 町内であった。過去と比較すると、子ども会、お子安講、青年団、老人クラブは半減し、同行講、庚申講はほぼ維持されていた。

グループ活動調査票は 302 枚で、参加者延人数は約 6,090 人であった。特に同行講と、その他のグループの参加数が多かった。

その他のグループ活動で最も多かったのは、

「地域活動」で、町内会行事や防犯パトロールの他、ボランティア活動や交流・学習を目的にした新しいグループ活動も結成されていた。次いで「文化・宗教」で、主に祭りに関する活動と水神講・稲荷講にみられる地域に祀られている神社関係の会食であった。「運動」や「音楽」、「趣味」のグループ活動も、青年館等身近な会場で行なわれていた。子ども会以外の子育てに関する自主グループは、1 グループだった。

#### (2) グループ活動の効果と課題

共通していた効果は、「交流による親睦」と「情報交換」であり、共通の課題は「参加者及び回数の減少」であった。その他の効果として「健康の維持促進」、「ストレス解消」、「技術や教養を身につける」、「地域の安全・安心を守る」、「地域の問題の把握」、「お互いに助け合う等暮らしやすい地域づくりに貢献している」、「地域の伝統文化の継承」、「安全で清潔な地域の提供」、「楽しさ」が挙げられていた。

参加者の減少の理由は、「少子高齢化」のほか、「若い世代が加入しないこと」であった。

### 4. 考察

銚子市内には、多くのグループがあり、参加延人数は人口の約 1 割を占めていたが、参加者の高齢化と減少により消滅の危機にあった。

一方で、新しく結成された地域の仲間づくりを目指すグループや防犯パトロール隊等もあった。今後は、伝統的な「講」に健康づくりや地域の助け合いなどの目的を追加し、楽しく、自分自身と地域の双方に役に立つ活動で、グループが発展するとともに健康状況が改善するような働きかけが求められているといえる。